

会 報

平成16年度第3回日本公衆衛生学会理事会議事録

I. 日 時 平成16年10月26日(火)10:00~12:40

II. 場 所

III. 出席者 理事長 多田羅浩三
 学会長 多田 學
 理 事 阿彦忠之 遠藤 明
 大井田隆 金川克子
 小林廉毅 近藤健文
 佐藤 洋 實成文彦
 嶋本 喬 新庄文明
 瀬上清貴 伊達ちぐさ
 中川秀昭 中原俊隆
 松田 朗 三角順一
 村嶋幸代 (17名)

副会長 永田伸二
 監 事 能勢隆之 宮武光吉 (2名)

委任状提出者

理 事 相澤好治 入山文郎
 角野文彦 篠崎英夫
 澁谷いづみ 納谷敦夫
 藤田利治 (7名)

副会長 中島雪夫 井上勝博 (2名)

以上 理事現在数29名 出席理事20名

委任状提出理事9名

オブザーバー 岸 玲子 (北海道大学医学系研究
 科教授)

鏡森定信(富山医科薬科大学教授)

藤田委由(島根大学医学部公衆衛
 生学教授)

正林督章(島根県健康福祉部)

平子哲夫(厚生労働省健康局総務
 課地域保健室)

学会規定第13条第1項による定数に達していることを確認の後、多田羅浩三理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち多田羅理事長から多田学会長はじめ島根県、島根大学の関係者のみなさんに対する感謝と新潟中越地震の被災者に対してお見舞いの挨拶があった。

永田伸二副会長から、歓迎の挨拶があった。

議事録署名人選出

議事録署名人に、嶋本 喬、金川克子両理事が

指名され了承された。

議 事

第1号議案 第63回(平成16年度)日本公衆衛生学会総会について

多田 學学会長から、皆様の協力のもと是非成功させたい旨、今回の総会参加への歓迎とお礼の挨拶があった。また、10月は神無月だが、島根県は神有月なので、是非、学会終了後は観光して下さるようお願いがあった。

以上により、本議案は了承された。

第2号議案 第64回(平成17年度)日本公衆衛生学会総会について

岸 玲子次期学会長からパワーポイントにより、準備状況について下記のとおり説明があった。

会期は9月14日から16日を予定している。

会場の札幌コンベンションセンターは、2003年6月に完成したスペースのゆったりした緑と風の通るさわやかな会場である。

ホテル数は充分あるが、会場近くは早々にいっぱいになる可能性があるため早めに予約してほしい。

一般演題は口演と示説の混合型を考えている。

自由集会は14日15日の2日間で行う。

16日は午前中で終了の予定である。

また、岸次期学会長から、例年より1か月総会が早まるので奨励賞の決定時期を早めてほしい旨要望があり、持ちまわり理事会にするか、来年は役員選挙の年なので7月の理事会を早めにしてはどうかとの意見がだされ、理事長と庶務担当理事で検討することとなった。

以上により、本議案は了承された。

第3号議案 第65回(平成18年度)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から、第65回日本公衆衛生学会総会は、富山県富山市で開催し、学会長については富山医科薬科大学教授の鏡森定信先生にお願いしたい旨前回の理事会において了承されたが、本日午後開催の評議員会、明日開催の総会に諮る旨の提案があり、了承された。

鏡森富山医科薬科大学教授から、正式決定後、富山県と相談して準備を進めたい。第44回総会では事務局を担当した経験があり、21年ぶりの総会となる。会期は10月の最後の週を予定している旨

説明があった。

以上により、本議案は了承された。

第4号議案 評議員会について

近藤建文庶務担当理事から資料に基づき、評議員会の議事進行の確認が行われ、原案どおり了承された。

第5号議案 総会議事について

近藤理事から総会議事進行の確認が行われ、原案どおり了承された。

第6号議案 その他

1. 平成15年度決算の余剰金等について、9月9日に庶務・会計担当理事が検討した事項について協議した結果、下記のとおり評議員会に報告することとした。

- 学会機関誌の掲載料の学会負担分を11月号掲載分から70%（現在は30%）とする。
- 奨励賞受賞者に研究費として副賞の増額を検討している。
- 学会員の質の向上のため総会時の教育講演等について補助することを検討している。

2. 小林廉毅理事から科学研究費補助金（基盤研究等）の審査委員選考方法の変更について説明があった。

3. 多田羅理理事長から米国公衆衛生協会第132回年次総会に、本学会を代表して大井田理事に参加してもらい、費用の一部を学会で負担する旨説明があり了承された。

報告事項

1 委員会報告

1) 編集委員会

小林編集担当理事から下記のとおり説明があった。

(1) 11月号は英文誌になり、10編ほど掲載される予定である。締切を6月末にしたが、来年の締切は少し早めにしたい。

(2) 明後日拡大編集委員会が開催されるが、査読期間の短縮について検討する予定である。

2) 公衆衛生研修委員会

大井田隆委員長からホームページと学会誌（51巻9号）を利用して、学会活動としてどのようなことを実施すべきか会員への意識調査を行っているが、回答は今のところ10件との報告があった。

3) 地域保健委員会

阿彦忠之委員長から9月21日開催した委員会について報告があった（詳細については委員会報告を参照のこと）。

学会総会のネームプレートの喫煙についてのアンケートで、会員から年齢と性別をきいていないのはおかしいとの指摘があり、来年以降対応することとした。

4) 感染症対策委員会

角野文彦委員長欠席のため、新庄文明理事から8月31日に開催した委員会について報告があった（詳細については委員会報告を参照のこと）。

5) 公衆衛生看護のあり方に関する検討委員会 金川克子委員長から10月28日に開催するフォーラム「公衆衛生看護の人材育成の向上をめざして」について説明があり、多数の方の参加を期待している旨発言があった。

6) IT化検討委員会

中川秀昭委員長から学会ホームページのアクセス状況と名簿作成状況について報告があった。

2 その他

1) 瀬上清貴理事から新潟中越地震の報告があり、PTSDに対応できる力のある保健師を推薦してほしいとの発言があった。

能勢隆之監事から、鳥取県は近年地震の被害にあっているため、早急に保健師を派遣する予定がある旨発言があった。

2) 近藤理事から中富健康科学振興財団の顕彰に岩手医科大学名誉教授の角田文男先生を推薦した旨報告があった。

3) 近藤理事から下記の団体から依頼のあった後援名義資料について承諾した旨報告があった。

- 第32回建築物環境衛生管理全国大会
- 世界一般医・家庭医学会2005年アジア太平洋学術会議

以上をもって、理事長が閉会を宣した。

次回理事会は平成16年1月18日（火）1時半から東京厚生年金会館で行う。

平成16年度第3回地域保健委員会報告

日 時：平成16年9月21日（火） 9：30～12：00

場 所：日本公衆衛生協会 3階会議室

出 席：阿彦忠之（委員長）、實成文彦、澁谷い

づみ、

欠席：嶋本 喬，三角順一

前回の討論結果を受けて、今回は児童虐待対策に関する population strategy を提案するための基礎として、基本的な地域保健活動の強化や保健師の役割などに焦点を当てた。

ゲスト講師として和歌山県立医科大学保健看護学部の山田和子教授を招き、関連する調査研究の成果などを紹介してもらいながらフリーディスカッションを行った。主な論点は、以下のとおりであった。

児童虐待対策の基本は、地域（市町村）における母子保健活動である。①地域の子ども全員とその保護者を対象、②新生児期から就学前まで系統的に事業を実施、③家庭訪問というアウトリーチ機能がある、④育児サークルなどの住民の自主活動への支援も実施、といった母子保健活動の特徴を最大限に生かした対策の提案が望まれる。

しかし、最近では母子保健の基本を理解していない保健師の増加が心配。親子をみる視点、生活をみる視点を養い、親に育児への自信と楽しさを芽生えさせるような支援ができるよう、保健師の現任教育（特に初任期研修、保健所の支援）の中で力量形成が必要。

児童相談所等の福祉機関に比べて、保健所などの保健機関では、就学前のネグレクト事例への支援が多く、在宅で長期の育児支援と生活支援を意識した関係機関とのネットワーク構築が不可欠である。

児童虐待対策に関する事業予算の多くを福祉部門で主管している市町村が多いことも課題である。「児童虐待防止ネットワーク」の運営を例にすると、その役割（①啓発、②予防、③発見、④介入・援助、⑤見守り）のうち、福祉部門は④以外のネットワーク運営については経験が乏しく、福祉主導によるネットワークには限界があるだろう。

以上のほか、児童虐待対策における都道府県（特に保健所）の役割、及び児童虐待の実態把握の方法（疫学的な方法論を用いた調査方法）についても話題となった。

次回以降は、わが国の児童虐待対策の課題と今後の施策の在り方を整理し、当学会としての取組みの提案をめざして協議する予定である。

平成16年度第4回感染症対策委員会報告

日時：平成16年8月31日(火)15時半から17時半

場所：勲日本公衆衛生協会3階 会議室

出席者：角野文彦（委員長）、新庄文明、瀬上清貴、丹野嵯喜子、吉田英樹、多田羅浩三（理事長）

欠席者：阿彦忠之、砂川富正、藤田利治、吉澤浩司

1. HIV・AIDSに関する調査研究について

吉田委員から、HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究（平成15年度研究報告書 木原班）を要約した結果が報告された。

丹野委員から、全数把握対象疾患（アメルバ赤痢、後天性免疫不全症候群、梅毒）の全国と埼玉県の報告患者数の推移と感染症情報センターが把握している性器クラミジア感染症と淋菌感染症の過去10年間、性別年齢別の推移について説明があった。

角野委員長から、保健所における感染症対策の現状と保健所のHIV/AIDSの検査体制、HIV抗体検査件数の年次推移、AIDSの啓発活動について説明があり、学会として何を提言するか提案があった。

新庄委員から、日本のHIV感染動向を、HIV/AIDSサーベイランスから検討し、5～10年後に日本のHIV感染者が10万人に達するという予想について説明があった。

阿彦委員欠席のため、委員長からコンドーム出荷数とHIV感染者数・性器クラミジア・淋菌感染症罹患率について紹介があった

吉澤委員欠席のため、委員長からHBV感染者の増加を基に、HIV感染者の増加を示す資料の紹介があった。

以上を踏まえ、吉田委員がレポートをまとめることとなった。

次回は青少年の性の実態を把握するため、山形県保健医療大学の渡會睦子氏に講演を依頼することとした。

次回委員会11月12日(金)4時から

平成16年度日本公衆衛生学会評議員会議事録

- I. 日 時 平成16年10月26日(火)13:00~15:00
 II. 場 所 サンラポーむらくも
 III. 出席者 70人 委任状提出者 163人
 合計 233人(現在員数 283人)

事務局から学会規定第15条2項による出席評議員が定足数に達した旨の報告の後、多田 學学会長が議長となり開会を宣言した。議事に先立ち多田学会長から歓迎の挨拶、多田羅浩三理事長から挨拶と学会機関誌51巻9号に掲載された「保健所長の医師資格要件に関する検討についての見解」について説明があった。

議事録署名人には、福澤陽一郎評議員と村嶋幸代理事が指名された。

報告事項

1. 平成15年度会務報告

近藤健文庶務担当理事から資料に基づき、学会庶務に関する事項、学会総会、奨励事業、学会機関誌発行等の事業全般について報告があった。

2. 委員会報告

1) 編集委員会報告

小林廉毅編集担当理事から次のとおり報告があった。

- 編集委員会は毎月1回開催し、機関誌も順調に発行している。
- 平成15年度の投稿原稿数は137編であり、投稿数は14年度より減少しているが、今年度に入っても減少しているということはない。
- 採用状況は、前年度以前の投稿分をふくめて採用85編、審査継続中66編、不採用36編、著者からの取り消し4編となっている。
- 掲載論文数は82編で14年度より若干減っている。投稿から掲載までの期間の平均は、15年度は10.8カ月であり昨年度並みである。
- 投稿から1回目の返事までは3.3カ月となっており、昨年の12月から査読方法を替え、半月程度は早くなるよう努力している。
- 50巻記念事業として歴代編集長による寄稿、座談会を実施した。
- 今年11月には英文号を発行の予定である。16編の投稿があり、10編採用になった。

2) 公衆衛生研修委員会

- 大井田隆委員長から次のとおり報告があった。
- 平成15年度は委員会を2回開催し、11月には医師臨床研修「地域保健・医療」研修指導者開発ワークショップを開催した。
 - 今年度はワークショップは実施していないが、「会員の資質向上のために学会として何をすべきか」についてアンケート調査を実施している。今のところ10件の回答があった。

3) 地域保健委員会

- 阿彦忠之委員長から次のとおり報告があった。
- 平成15年度は第62回総会において「たばこのない社会の実現に向けた行動宣言」を行った。それを受けて、総会参加者の喫煙状況についてアンケート調査を行ったが、性別と年齢を調査項目に入れていなかったため、次年度には加えたい。
 - 他の学会と連携してタバコ対策を行うということで循環器学会が主になり9団体がいっしょに「禁煙支援ガイドライン」を作成中であり、今年度中の完成を目指している。
 - 今年度は児童虐待対策をテーマに検討を重ねている。

4) 感染症対策委員会

- 角野文彦委員長欠席のため、新庄文明理事から次のとおり報告があった。
- 平成15年度は委員会を4回開催し、SARSに焦点をあてて検討し、昨年の総会時には感染症フォーラムを開催した。
 - 今年度は4回開催しており、「日本のエイズの現状と本学会としての対応」にテーマを絞り検討している。

5) 公衆衛生の看護のあり方に関する検討委員会

- 金川克子委員長から次のとおり報告があった。
- 平成15年度は委員会を3回、ワークショップ、自由集会を行った。保健師教育機関の多様性、全国の看護大学の増加に伴い、保健師教育の質、実習の質はどうか、について検討した。
 - 今年度はそれを受けて教育体系を整理するため、ワーキンググループを立ち上げ、10月28日には「保健師の卒前教育と卒後教育」をテーマにフォーラムを開催する予定である。
 - 来年度は本委員会の活動も3年目になるため、学会としての見解をまとめたい

6) IT化検討委員会

中川秀昭委員長から次のとおり報告があった。

- 今年1月にホームページを開設した。これまでにアクセス件数は一般ページで4万件、会員ページで8千件であった。6月には演題申し込み等で1日約350件のアクセスがあった。
- 評議員から掲示板設置の要望があったが、会員のご意見を伺うということで当委員会が取りまとめ、必要に応じて担当の委員会、理事長が回答することとしている。
- 今年度は名簿の作成は、7月上旬に調査表を会員に送付した。郵送およびホームページによる回答は5000件余あり、10月末で締め切り、12月発行を目指して準備を進めている。

7) 規定改正委員会

松田 朗委員長から昨年の評議員会で改正された役員選出に関する規定の改正点についてと、法人化について検討した結果、現状で問題がないので法人化は見合わせた旨説明があった。

8) 学会総会60回記念事業委員会

多田羅理事長から、学会総会60回記念事業委員会の事業の説明と6回の座談会をまとめ冊子した旨報告があった。

3. その他

1) 中富健康科学振興財団の顕彰について

近藤理事より中富健康科学振興財団から平成15年度健康科学の発展に功績のあった研究者として高石昌弘氏が顕彰された旨報告があった。

2) 『地域保健・医療』臨床研修に関する連絡協議会

近藤理事から、この協議会は関西医科大学の徳永力雄先生が座長となり『地域保健・医療』に関連する6団体の代表者が集まり、臨床研修の準備状況、プログラム、指導者のワークショップ等について検討した旨報告があった。

質 疑

名古屋市立大学の徳留信寛評議員から、研修システム、認定医制度を検討して欲しい、また、東海地方会が一時存亡の危機にさらされた経緯から本部と密接な連携を持って地方会を運営していきたいとの意見がだされた。

これに対して多田羅理事長から以下の回答があった。

1. 認定制度については常に課題になっており前

理事体制では二塚 信理事が委員長になり公衆衛生人材委員会で検討したが、産業医の認定医制度と異なり、学会の構成員が多職種にわたっていること、認定するには本学会自体が法人化しなければならないことなどがあり、総論では賛成でも各論になると難しいのでそのままになっている。

2. 地方会については、第60回総会の時に一度各地方会の代表の方々と話し合いの機会を持った。それぞれの地方会がそれぞれの活動をしていることに敬意を表したい。それ以降話し合いの機会を設けていないので、理事会に諮り今後の対応を検討したい。

3. 地域保健医療研修については、昨年の11月にワークショップを開催した。その成果を受けて、国立保健医療科学院、保健所長会がワークショップの開催を進めているので、学会としてもサポートしている。なお、現在本学会としては、人材確保の方に焦点をあてて取り組んでいる。

徳留評議員から、日本産業衛生学会は会費の一部が地方会にくるが、本学会の場合は新たに会費を徴収するため、会員に非常に負担をかけているので、財政面も考慮いただきたい旨発言があった。

多田羅理事長から、一度話し合いの機会を持ちましょうとの回答があった。

神戸市の園 潤評議員から、今学会期間中に、募金箱を設けて新潟中越地震に対する義援金を集めたらよいのではないかと、タバコ対策について宿泊先のホテルのロビーは禁煙にしてほしい、また、たばこの標記は外来語なのでカタカナ表示してほしい旨発言があった。

多田学会長から、募金箱は早急に検討したい旨回答があった。

議 事

第1号議案 平成15年度収入支出決算(案)について

松田 朗会計担当理事から、資料に基づき平成15年度収入支出決算(案)について次のとおり説明があった。

1. 収入が予算より800万円ほど増加したのは、会員増による会費収入が増加したためであるが、会誌掲載料収入、会誌広告料収入は減収している。備品購入積立預金を取り崩さなくても対応

できた。

2. 支出のうち管理費はほとんど予算内でおさえた。事業費が280万円少なかったのは、会誌発行費が学会機関誌のページ数の関係から減ったためである。調査活動費は活発だったので増えている。備品購入費、IT化関係費についても予算より支出が多くなっているが、余裕を持って予算を組んだため、当期収支差額は870万円となった。

3. 収支差額21,308,777円は、平成16年度に繰り越すこととする。

能勢隆之監事から平成15年度収入支出決算に係る監査報告がなされた。

以上の説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

第2号議案 平成17年度収入支出予算(案)ならびに平成17年度事業計画(案)について

松田理事から、資料に基づき平成17年度収入支出予算(案)について次のとおり説明があった。

平成17年度収入支出予算については15年度の実績に基づいて組んだ

1. 会員数を8,000人で会費収入を見込んだ。その他収入としては、会員名簿は作成しないので会員名簿積立金預金取崩収入はなくなり、備品購入積立金預金を取り崩したため備品購入積立金取崩収入、第12回役員選挙のため選挙費用積立金取崩収入がある。

2. 支出も16年予算とあまり変更はないが、15年の実績ベースで行った。会誌発行費は15年度ベースにした。17年度は会員名簿作成費はなく、選挙関係費が計上されている。

近藤理事から平成17年度の事業計画(案)について17年度は役員選挙が行われる年なので、前半は今の理事体制で後半は新しい理事体制で行われることを了解してほしい旨説明があり、その後、第64回学会総会、奨励事業、会誌の発行、委員会活動、第12回役員選挙について説明があった。

以上の説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

第3号議案 名誉会員の推薦について

三角順一名誉会員担当理事から、理事会で承認された次の3人を名誉会員に推薦したい旨の提案があった。

仲村英一氏、三宅浩次氏、西三郎氏、

以上の説明の後、審議の結果承認され、明日開催の総会に諮ることになった。

第4号議案 第12回役員選挙について

近藤理事から下記のとおり説明があった。

選挙管理委員会は既に設置されており、昨年の評議員会で改正された規定に基づき、多田学会長、岸次期学会長、のほか、理事長から選挙管理委員として遠藤明理事、大井田隆理事、近藤理事が指名された。例年選挙登録が少ないことが問題になっているので、今回は是非、登録率を上げたい。選挙の告示は会誌52巻4号に掲載の予定である。今回はホームページを利用して登録、情報の提供を行いたい。

松田理事会第12回役員選挙予算(案)について、選挙人登録を4,000人と見込んで予算をたてており、平成16年度と17年度にわたって実施されるため、予算もそのようになっている旨、説明があった。

第5号議案 第65回(平成18年度)日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から、平成18年度の第65回学会総会は富山医科薬科大学の鏡森定信先生に学会長をお願いし、富山県富山市において開催したい旨提案があり、承認され、明日開催の総会に諮ることとなった。

なお、副学会長については学会長ならびに理事会に一任された。

昨年の評議員会での検討事項のうち、再度理事会で検討することとなった事項の理事会での決定について理事長から回答があった。

・役員選挙における得票数の公表について

役員選挙に関する規定15条に選挙管理委員会の参観を認めているので、それを持って、公表と考える。

・名誉会員になられた方が学会の決議等に反する行為をした場合の対応について

本人の判断に待たざるを得ない。

・役員選挙に関する規定3条について、保健師、看護師、助産師をまとめてほしい。

本学会はいろいろな職能の方がいるので、その現状を把握するためにそれぞれ登録してもらって

いる。投票では1つのグループとして行っているので了解いただきたい。

また、近藤理事から、15年度の余剰金の有効利用について7月の理事会後、庶務担当理事・会計担当理事が検討した結果について次のような説明があった。

1. 学会機関誌の掲載料の学会負担率を70%に上げる。これは51巻11号から実施する。
2. 奨励賞の副賞の増額を検討する。
3. 学会員にたいする研修機能の充実を図るため、学会総会時の教育講演等の費用の補助を検討する

以上で議事を終り、岸次期学会長、および次々期学会長（予定）鏡森定信富山医科薬科大学から挨拶があった後、議長が閉会を宣した。

平成16年度日本公衆衛生学会総会議事録

I. 日 時 平成16年10月27日(水)13:00~13:30

II. 場 所 くにびきメッセ

学会規定第19条により多田 學学会長が議長となり開会を宣した。

総会議事に先立ち多田羅浩三理事長から、多田学会長をはじめ島根県、島根大学関係者に対する謝辞を含めた挨拶があったのち、議事に入った。

III. 議 事

会務報告

近藤健文庶務担当理事から、平成15年度の学会会員、名誉会員、役員会等の庶務に関する事項、会誌の発行状況、平成15年度の収支決算について一括報告がなされ、収支決算については会誌に掲載する旨の報告があった。

宮武光吉監事から監査報告があった。

引き続き、近藤理事から昨日の評議員会で承認された平成17年度事業計画、平成17年度収入支出予算について報告があった。

第1号議案 名誉会員の推薦について

多田羅理事長から、学会規定に基づく名誉会員の推薦内規により選考された次の3名の方々について、名誉会員に推薦したい旨提案があり、略歴が紹介され、満場一致で承認された。

仲村 英一氏	結核予防会理事長
三宅 浩次氏	札幌医科大学名誉教授
西 三郎氏	元国立公衆衛生院衛生行政学部長

第2号議案 第64回（平成17年）日本公衆衛生学会総会について

多田羅理事長から、来年の学会総会は平成17年9月14日から3日間、岸 玲子北海道大学大学院医学系研究科教授に学会長をお願いして開催することとなり、一任されていた副会長には、飯塚弘志北海道医師会長、太田 博北海道保健福祉部長、宮田睦彦札幌市保健福祉局長に就任いただいた旨報告があった。また平成18年の第65回学会総会については、昨日の評議員会において承認されたように、学会長は鏡森定信富山医科薬科大学医学部教授にお願いし、富山県富山市において開催したい旨提案がなされ、満場一致で承認された。なお、副学会長については学会長ならびに理事会に一任された。

以上で総会の審議を終了し、岸次期学会長と鏡森定信次々期学会長から挨拶があった後、議長が閉会を宣した。

収 支 計 算 書

平成15年4月1日から16年3月31日まで

(単位：円)

科 目	平成15年度 補正予算	決算額	差 異	備 考
(収入の部)				
1 会費収入	61,600,000	72,384,000	10,784,000	8千円×9,048人 (15年度8,109人・64,872,000) (14年度 939人・7,512,000)
2 会誌掲載料収入	5,500,000	4,977,840	△522,160	
3 会誌投稿料収入	650,000	675,000	25,000	
4 会誌広告料収入	1,800,000	1,302,000	△498,000	
5 助成金収入	200,000	200,000	0	日本医学会
6 雑誌販売収入	1,200,000	1,351,600	151,600	
7 特定預金取崩収入	9,110,000	7,000,000	△2,110,000	
1) IT化積立預金取崩収入	7,000,000	7,000,000	0	
2) 備品購入費積立預金取崩収入	2,110,000	0	△2,110,000	
8 雑収入	800,000	907,818	107,818	雑誌データ利用許諾料金等
当期収入合計(A)	80,860,000	88,798,258	7,938,258	
前年度からの繰越金	12,582,409	12,582,409	0	
収入合計(B)	93,442,409	101,380,667	7,938,258	
(支出の部)				
管理費	26,830,000	25,523,592	1,306,408	
1 会議費	600,000	468,010	131,990	
1) 理事会費	400,000	365,610	34,390	会場費、資料作成費等
2) 評議員会費	100,000	84,000	16,000	資料作成費等
3) 会議費	100,000	18,400	81,600	
2 旅費交通費	2,200,000	1,841,220	358,780	役員、職員旅費
1) 理事会出席旅費	1,600,000	1,541,760	58,240	
2) その他旅費交通費	600,000	299,460	300,540	
3 通信運搬費	1,300,000	1,215,315	84,685	事務用郵便料、電話料
4 消耗品費	350,000	256,251	93,749	事務用消耗品費
5 印刷製本費	600,000	310,695	289,305	
6 賃借料	100,000	0	100,000	総会時コンピューター
7 支払手数料	600,000	632,580	△32,580	会費払込料金(加入者負担)等
8 諸謝金	800,000	497,728	302,272	
9 事務委託費	19,880,000	19,880,000	0	日本公衆衛生協会
10 雑費	400,000	421,793	△21,793	保守料、パソコン修理代等
事業費	46,510,000	43,641,236	2,868,764	
1 奨励事業費	400,000	335,612	64,388	表彰、選考賞等
2 会誌発行費	38,110,000	34,614,688	3,495,312	
1) 編集費	5,110,000	4,265,163	844,837	編集委員会費用、査読依頼費等
(1) 会議費	300,000	331,865	△31,865	
(2) 旅費交通費	1,300,000	946,980	353,020	
(3) 通信運搬費	900,000	597,555	302,445	
(4) 消耗品費	100,000	25,207	74,793	
(5) 印刷製本費	710,000	730,950	△20,950	
(6) 諸謝金	1,800,000	1,632,606	167,394	
2) 会誌作成発送費	32,500,000	29,939,064	2,560,936	
(1) 印刷製本費	22,000,000	19,936,002	2,063,998	製本費、版下作成費等
(2) 通信運搬費	10,000,000	9,520,692	479,308	
(3) 雑費	500,000	482,370	17,630	発送用ラベル
3) 雑誌50巻記念事業費	500,000	410,461	89,539	
3 調査活動費	5,000,000	5,690,936	△690,936	委員会活動費
4 総会負担金	3,000,000	3,000,000	0	総会負担金
学会総会60回記念事業費	1,000,000	829,734	170,266	座談会等
備品購入費	2,110,000	2,383,500	△273,500	
IT化関係費	7,000,000	7,679,999	△679,999	
特定積立預金支出	3,020,000	13,829	3,006,171	
1) 会員名簿積立預金支出	2,000,000	0	2,000,000	
2) 選挙費用積立預金支出	1,000,000	0	1,000,000	
3) 利息繰入金	20,000	13,829	6,171	
予備費	2,972,409	0	2,972,409	
当期支出合計(C)	89,442,409	80,071,890	9,370,519	
当期収支差額(A)-(C)	△8,582,409	8,726,368	17,308,777	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,000,000	21,308,777	17,308,777	

貸借対照表

平成16年 3 月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	171,576	
普通預金	14,870,208	
振替貯金	6,801,441	
未収入金	785,930	
前払金	3,000,000	
流動資産合計		25,629,155
2 固定資産		
総会運営基金	3,532,052	
選挙費用積立預金	2,725,407	
備品購入等積立預金	6,969,028	
会員名簿積立預金	2,000,481	
IT化積立預金	0	
財政調整積立預金	44,132,494	
固定資産合計		59,359,462
資産合計		84,988,617
II 負債の部		
流動負債		
未払金	2,574,812	
前受金	1,544,000	
流動負債合計		4,118,812
負債合計		4,118,812
III 正味財産の部		
正味財産		80,869,805
(内 当期正味財産増加分)		505,724
負債及び正味財産合計		84,988,617

積立預金収支の部

平成16年3月31日現在

1) 総会運営基金 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	3,531,203	次年度繰越金	3,532,052
受取利息	849		
計	3,532,052	計	3,532,052

2) 選挙費用積立預金 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,725,801	残高証明書手数料	420
受取利息	26	次年度繰越金	2,725,407
計	2,725,827	計	2,725,827

3) 備品購入等積立預金 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	6,967,353	次年度繰越金	6,969,028
受取利息	1,675		
計	6,969,028	計	6,969,028

4) 会員名簿積立預金 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰入金	2,000,000	次年度繰越金	2,000,481
受取利息	481		
計	2,000,481	計	2,000,481

5) 財政調整積立預金 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	44,121,874	次年度繰越金	44,132,494
受取利息	10,620		
計	44,132,494	計	44,132,494

平成15年度監査報告書

平成15年度日本公衆衛生学会事業報告書(案)及び収入支出決算書(案)に基づいて会計帳簿、証憑書類、預金通帳、関係書類等をもとに監査した結果、業務ならびに会計処理が適正に運営・管理され、資産が貸借対照表どおりに管理されていることを確認したので報告します。

平成16年7月14日

監事
宮 武 光 吉
監事
能 勢 隆 之